

資料—3

「第1回委員会」以降の取組経過

1. 尾原ダム水源地域ビジョン策定の作業状況
2. さくらおろちを活性化する会での検討結果
3. 尾原ダム水源地域ビジョンニュース

平成25年1月17日

尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会事務局

1. 尾原ダム水源地域ビジョン策定の作業状況

年月	尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会 さくらおろちを活性化する会	議事事項等
9月	第1回策定委員会【9/20】	・流域、水源地域の概要 ・水源地域の課題 ・理念、基本方針 等
	尾原ダム水源地域ビジョンニュース【9/24】	
10月	第1回活性化する会【10/23】	・水源地域ビジョンの説明 ・『尾原ダム「地域に開かれたダム」整備計画』の説明 ・基本理念・地域の目標像・基本方針の事務局案の説明 ・守りたい資源、活かしたい資源、プロジェクトの抽出（3班で討議）
	行政間会議【10/12】	
10月	尾原ダム水源地域ビジョンニュース【10/30】	
	アンケート調査・資料配布【10/30】	【配布資料】 ・「第1回尾原ダム水源地域ビジョン作業部会（仮称）」議事概要 ・尾原ダム水源地域ビジョンニュース 【アンケート内容】 ・尾原ダム水源地域ビジョン作業部会（仮称）の組織名称
11月	行政間会議【11/8】	
	第2回活性化する会【11/15】	・プロジェクトの追加抽出及び確認 ・プロジェクトの体系化（案）の提示 ・プロジェクトの内容の整理（案）の提示
11月	尾原ダム水源地域ビジョンニュース【11/28】	
	アンケート調査・資料配布【11/28】	【配布資料】 ・「第2回さくらおろちを活性化する会」議事概要 ・尾原ダム水源地域ビジョンニュース 【意見照会】 ・プロジェクトの体系化（案）及び内容（案） 【アンケート内容】 ・先行プロジェクト選定アンケート
12月	第3回活性化する会【12/12】	・プロジェクト内容（全体）の決定 ・プロジェクトの優先順位づけ ・先行プロジェクトの選定及び決定 ・先行プロジェクトのとりまとめフォーマットの確認
	尾原ダム水源地域ビジョンニュース【12/25】	

年月	尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会 さくらおろちを活性化する会	議事事項等
1月	行政間会議【1/10】	
	第2回策定委員会【1/17】	【審議事項】 ・「第1回委員会」委員意見への対応状況 ・尾原ダム水源地域ビジョンの基本理念・地域の目標像・基本方針の報告 ・「第1回委員会」以降の取組経過 ・尾原ダム水源地域ビジョン策定の作業状況の報告 ・尾原ダム水源地域ビジョンにおけるプロジェクト（案）の審議 ・尾原ダム水源地域ビジョンのプロジェクトの取組時期（案）の審議 ・先行プロジェクトのとりまとめフォーマット（案）の審議 ・広報の取組状況の報告
1月	アンケート調査・資料配布【予定】	【配布資料】 ・「第3回さくらおろちを活性化する会」議事概要 ・尾原ダム水源地域ビジョンニュース 【アンケート内容】 ・先行プロジェクトの取組内容等
	【アンケート】 ・1/21(月)～1/28(月)アンケート調査（さくらおろちを活性化する会参加者） ・1/30～2/1 意見照会（行政間）	
2月～	行政間会議【予定】	
	第4回活性化する会【予定】	・先行プロジェクトのとりまとめ（内容、実施項目、役割分担） ・湖面利用の手引き（案）
2月～	さくらおろち湖周辺施設管理者調整会議（仮称）【予定】	
	第3回策定委員会【予定】 「湖面利用の手引き」等公表	【審議内容（案）】 ・先行プロジェクトのとりまとめ 等 ・湖面利用の手引き（案）の審議
4月～	第5回活性化する会【予定】	・水源地域ビジョン（素案） ・推進体制
	第4回策定委員会【予定】 「尾原ダム水源地域ビジョン」策定・公表	【審議内容（案）】 ・水源地域ビジョン（案）の審議 ・推進体制の審議

平成24年度

平成24年度

平成25年度
(夏頃)

2. さくらおろちを活性化する会での検討結果

(1) 守りたい資源・活かしたい資源等の抽出【第1回・第2回】



【A班】



【B班】



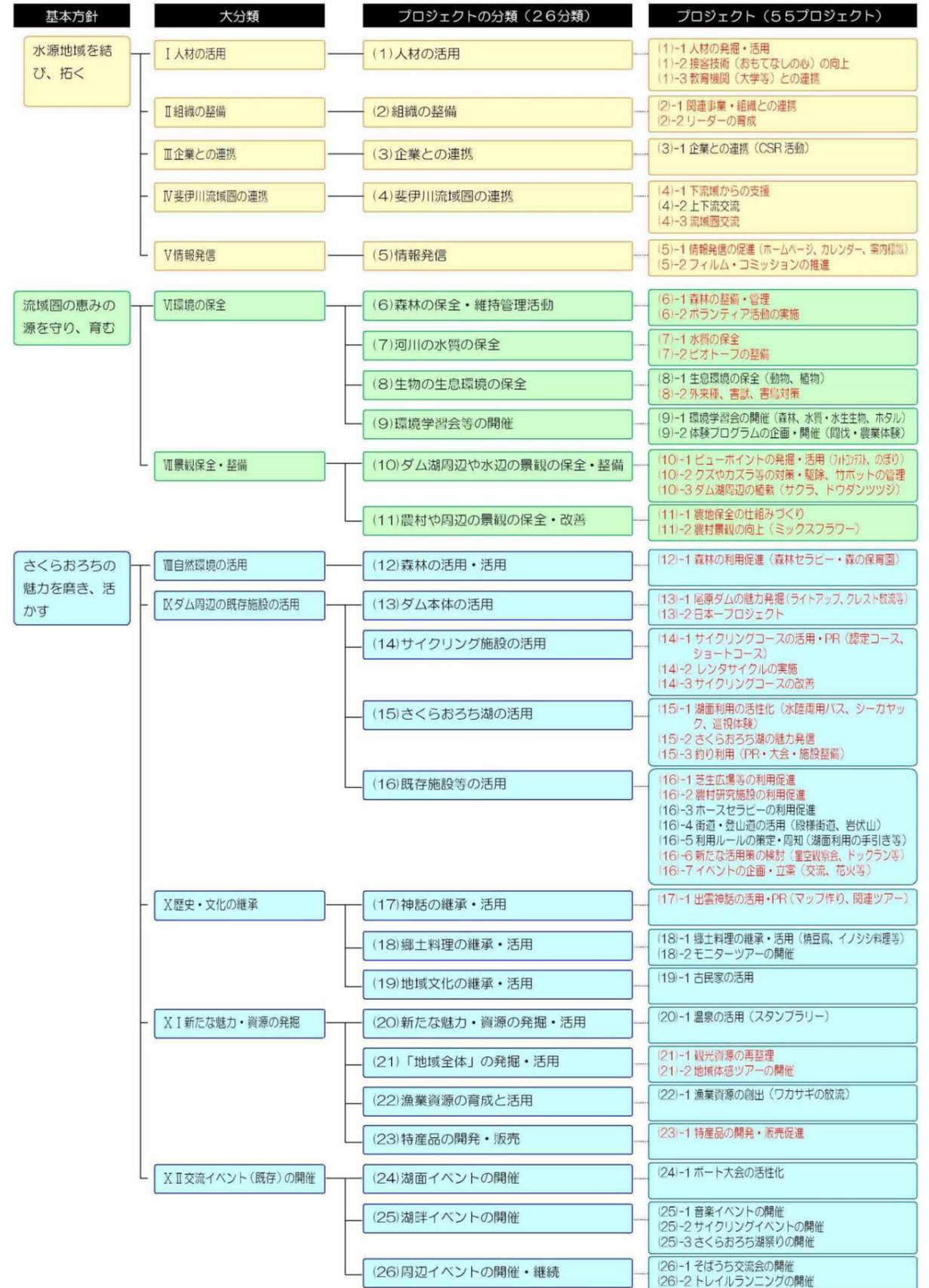
【C班】

(2) 取組内容の抽出(抜粋)【第1回・第2回】

大分類	小分類	守りたい資源	課題	ア〇外番号	取組	班	
I 環境の保全	(1) 森林	・風景や自然を守ってきたい。 ・森林を保全し、自然環境を守ってきたい。 ・きれいな星空が見られる自然環境を守ってきたい。	・雑草、竹、クスの除去等の活動が欠かせないが、地元の住民は高齢化しており、技術力、時間や労力、お金がなくて困っている。 ・山林の崩壊等が進んでいる。	(1)-1 (1)-2 (1)-3 (2B)-1	● 広葉樹の雑草や維持管理への森林ボランティアの動員を考えている。 ● 環境学習を開催し意識啓発を図りたい。 ● 企業のCSR活動(社会貢献活動)と連携する。 【参考】 間伐材の対応には、農林補助事業が使えないのか。	A	
		・豊かな森の恵みや緑豊かな自然、自然環境を守りたい。	・意識啓発が必要。地域住民全員で守っていくという意識づけをしっかりと行うことにより、環境保全と更なる改善につながる。 ・間伐など人工林の整備。人工林は放棄すると荒れてくる。	(1)-3	● 意識づけのための学習会や自然観察会などを行う。	C	
		・斐伊川の水質をよくしたい。 ・おいしい水、きれいな水を守りたい。 ・尾瀬ダムの水など、水資源を守りたい。 ・河川の水質を守りたい。 ・上流域だけでなく、下流域を含めた水質環境を守りたい。	・ダムに流入した土砂等が底にたまって水が黒く見える。 ・下水道の整備が不十分であるため、水質悪化を懸念する声がある。	(1)-1 (2B)-1	● 水質を管理するために上流域の山を整備し、流れ込む水をきれいにしたい。 ● 下流域の水質を守るためにも、下流域の支援をお願いしたい。 ● (琵琶湖で行われている事例を参考として) 地域住民が油を出さない活動を行いたい。	A B	
	(2) 水質	・クマタカなどの希少種生物が生息している。 ・山や川に生息している生物を守りたい。 ・タヌキ、サル、鳥、ホタル、ハンザゲ(オオサンショウウオ)などの森や川の動物や生物を守りたい。 ・ダム整備に伴う護岸整備に伴い、ホタルなどの生き物が減少した場所があり、守ってきたい。	・ブルーギル等の外来種が侵入することで、希少な魚種が減少してしまう。 ・希少種が生息していることを公表すると、採捕目的の人が来てしまい生息環境が悪化する。 ・サイクリングロードにクマが出ないようにするための、人間と動物の住み分け問題について考える必要がある。	(1)-1 (3)-1 (3)-2 (3)-2 (3)-3	● (動物と共生するための) 安全対策が必要である。 ○ ホタルの保全活動は既に実施されている。 ○ 餌となるカワナガの減少を防ぎ、放逐して増やす。 ● カワナガの生息に適した水質(水質階級B:少し汚い程度の水質)を確保することを通じ、水質と生き物との関係性の学習につながる。 ● ダムや周辺の河川など、子どもたちの夏休みの研究や自然観察会のフィールドや題材にすることもできる。	A B C	
				(4)-1	○ 維持が困難な農地は崖で耕作する仕組みづくりに取り組んでいる。 ● 地域外から来た人に荒れた地域を見せないような取組をしたい。例えば、耕作できなくなった農地にミックスフラワー(数種類の花が色とりどりに咲く種)を植えて景観を向上させ、来訪者に来て楽しんでもらう取組などを実施したい。	C	
				(2B)-2 (4)-2	● 農地を後世に繋げていくために、地域内や上下流域での交流を深め、皆で守る。 ● 農業体験ツアーを開催していく。	A	
	II 景観保全・整備	(5) 水辺の景観	・ダム下流の景色を守りたい。 ・湖面の風景を守ってきたい。 ・ダム湖でこれだけ開けた風景のところは少ないと思うので守り活かしたい。	・景観を守るためには、木の伐採、維持管理が必要である。			A
		(6) 農村や周辺の景観	・四季の風景(春の青葉、秋の紅葉)を大切にしたい。				A

凡例 ○: 既存の取組、●: 新規の取組

(3) プロジェクトの体系化【第2回】



赤字: 新規プロジェクト(36)、黒字: 既存プロジェクト(19)

尾原ダム水源地域ビジョンニュース

創刊号 (H24.9.24発行)

「尾原ダム水源地域ビジョン」の策定がはじまりました。
このニュースレターでは、ダム等を活かして地域の更なる活性化に取組む「尾原ダム水源地域ビジョン」の策定の状況を地域の皆様にお知らせしていきます。地域の更なる活性化の主役は地域の皆さんです。一緒に取組んでいきましょう。

尾原ダムは、平成24年3月鳥取県豊南市木次町に完成し、地域の安全・安心の確保、河川環境の保全、水道水の供給を目的として本格的に運用を開始しています。

「尾原ダム水源地域ビジョン」をつくりまします。

平成17年5月に「ダム湖と周辺地域が一体となった交流圏の形成」を基本理念とした「尾原ダム」地域に開かれたダム整備計画が策定され、ボート競技施設や自転車競技施設、道の駅、温泉施設などの周辺施設がほぼ完成し、積極的に活用されています。

今後は、これらの周辺施設を活かしながら、日常的な交流・連携を推進し、水源地域の更なる活性化を図っていく必要があります。

そこで、尾原ダム水源地域にある様々な資源と尾原ダムの積極的な活用等によって水源地域の自立的・持続的な活性化を図るための行動計画(尾原ダム水源地域ビジョン)を平成25年夏頃を目処に策定していきます。

※水源地域ビジョンとは：国土交通省と水資源機構のダムにおいて、ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化のために、水源地域の自治体、住民等がダム事業者・管理者と協働で策定する水源地域活性化のための行動計画です。中国地方では、志津見ダム(鳥取県東郷町)、殿ダム(鳥取県鳥取市)、吉田ダム(岡山県瀬戸町)をはじめ、10箇所のダムですでに策定されています。



▲尾原ダムとさくらおろち湖

水源地域ビジョンの特徴は？

- ・地域を活かした計画です！ 水源地域の良いところを活かした様々な活性化の取組が計画されます。
- ・地域のみならずが主役です！ 水源地域の活性化に向けた取組の主役は皆さんです。地域の皆さんが中心となる取組について話し合いながら、計画に盛り込んでいきます。
- ・みんなでつくりまします！ 地域の皆さんと、水源地域の自治体、ダム事業者が共同して検討を進め、計画をつくっていきます。

「尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会」を設立しました！

平成24年9月20日(木)に「尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会」を設立しました。委員長には、速水雄一豊南市長が選出されました。委員会では、設立趣意、規約、策定手法、広報計画が承認され、続いて水源地域ビジョンの策定へ向けた意見交換が行われました。各委員から以下のような意見が出されました。



▲速水委員長のあいさつ

▲策定委員会の様子

【尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会委員】

氏名	所属・役職
作野 広和	鳥取大学 教育学部 准教授
藤部 博	温泉地区地域自主組織「ダム湖の郷」会長
中林 英清	NPO法人奥出雲有楽の郷 会長
速水 雄一	豊南市 市長(委員長)
井上 潤博	奥出雲町 町長
天津 芳郎	鳥取県 土庫部 斐伊川神河川対策課長
横田 典弘	鳥取県 豊南県土整備事務所長
藤 健一郎	国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所長

編 記 藤 健一郎

【各委員の主な発言】

- ・地域の方々とのかき混ぜを回しながら水源地域ビジョンを策定していく。
- ・上流域の各種団体あるいは住民組織が連携していく必要がある。
- ・地域住民や関係団体が自ら策定したという手作り感が必要である。
- ・下流域への広報も重要であるが、地元にも周知する必要がある。
- ・平成17年に策定された「尾原ダム」地域に開かれたダム整備計画の内容を再確認したうえで、検討していく必要がある。
- ・作業部会のメンバーについては、広く意見交換が図られるようなメンバー選定が必要である。
- ・地域が豊かになるような、あるいは豊かになるようなアクションプランにしたい。
- ・上下流交流に力を入れて欲しい。
- ・「尾原ダムならでは」を明らかにし、水源地域の潜在性を明確に示していくことが重要である。

今後は、地域の皆さんのご意見・ご提案をいただく作業部会(仮称)を開催しながら、水源地域ビジョンの検討を進めていきます。

次回委員会では、第1回策定委員会と作業部会(仮称)のご意見・ご提案をもとにした基本理念・地域の目標像・基本方針を報告し、具体的なプロジェクトについて意見交換を行う予定です。

創刊号、いかがでしたか？ このニュースレターでは、尾原ダム水源地域ビジョンの策定状況を随時お知らせします。一緒に、尾原ダム水源地域の未来を考えましょう。ご協力よろしくお願いいたします。



【発行】尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会事務局
 ・豊南市 ダム対策課
 ・奥出雲町 地域振興課
 ・鳥取県 豊南県土整備事務所
 ・鳥取県 斐伊川神河川対策課
 ・国土交通省 出雲河川事務所管理課二課

尾原ダム水源地域ビジョンに関する詳しい情報は国土交通省出雲河川事務所のホームページで公開しています。 <http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/>

尾原ダム水源地域ビジョンニュース

第2号 (H24.10.30発行)

このニュースレターでは、ダム等を活かして地域の更なる活性化に取組む「尾原ダム水源地域ビジョン」の策定の状況を地域の皆様にお知らせしています。

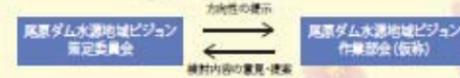
第1回「尾原ダム水源地域ビジョン作業部会(仮称)」を開催しました！

※以下、「作業部会(仮称)」という

◆「作業部会(仮称)」を設立しました。

平成24年9月20日に設立した「尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会」へ、水源地域の活性化に向けた具体的な取組(プロジェクト)に関する意見・提案を行う「尾原ダム水源地域ビジョン作業部会(仮称)」が設立されました。

この「作業部会(仮称)」のメンバーは、地域の皆さんや地域活動団体の方々を中心に、観光関係者や教育機関の方など幅広いメンバーで構成されています。



【尾原ダム水源地域ビジョン作業部会(仮称)メンバー】

区分	参加団体・組織
地域住民	平田地区自治会連絡会 麻原連合自治会 磯之原連合自治会 湯村自治会連絡会 ダム湖の郷
地域活動組織	温泉地区活性化対策協議会 NPO法人ふる里豊南 NPO法人さくらおろち
農工観光関係	豊南市商工会 JA豊南 鳥取大学
行政機関	豊南市、奥出雲町、鳥取県、国土交通省

◆第1回「作業部会(仮称)」での討議概要

初回である今回の「作業部会(仮称)」では、尾原ダム水源地域ビジョンの策定の背景や目的などを確認しました。その後、3グループに分かれ、尾原ダム水源地域への想い(「守りたい資源」、「活用すべき資源」)や、その想いを踏まえ、今後取り組んでみたいことなど、地域活性化に向けた意見交換を行いました。

意見交換では、水源地域の魅力の発見や再認識がなされ、参加メンバーの水源地域への想いが共有されるとともに、初回にもかかわらず具体的な取組の提案がされるなど、水源地域の活性化に向けた熱心な議論が終了時間まで続きました。

最後に、各グループ毎に意見発表をして頂き、第1回の作業部会を終えました。

【主な意見・提案】

- ・春は青葉、秋は紅葉、きれいな星空、こうした自然環境を守ってきたい。
- ・おいしい水、豊富な山菜や茸、仁多米など豊かな食文化を与えてくれる自然環境を守りたい。
- ・きれいな水を守りたい。そのためには油を出さない取組などを各家庭に広めていきたい。
- ・緑豊かな森を守るためには、自然観察会や学習会などの意識啓発活動を進めることが大切である。
- ・草刈りのボランティア活動など、地域でも自発的に周辺の維持管理を行うことが大切ではないか。
- ・農地の景観保全のために色とりどりの花を植えるというのではないか。
- ・「さくらおろち湖」の湖周をボート競技だけでなく、シーカヤックなども使って有効活用したい。
- ・ダム本体やダム周辺に整備された様々な施設を活用して、地域外の人を呼び込みたい。
- ・スポーツ施設を活用したダム上下流の交流を進めるためには、利用手段の多様な柔軟な施設運営が求められる。
- ・子供たちがのびのびと遊べる自然環境を大切にしたい。
- ・焼豆腐、米などの地元食材を使った料理を伝えていきたい。
- ・神話の伝承地なので、地元でもっと神話の事を知ることが必要。神話教室などを開催してはどうか。
- ・地域資源の保全と活用には、「継続」、「マンパワー」、全体を繋ぐ「ストーリー」が必要である。

次回は、今回の「守りたい資源」や、「活かしたい資源」、「取り組みたいこと」などについて追加意見を頂いた後、体系化を行い、具体的な取組(プロジェクト)をとりまとめていく予定です。

日時 : 平成24年10月23日(火)
 19時00分～21時30分
 場所 : 国土交通省尾原ダム管理支所
 参加者 : 29名



▲作業部会(仮称)の開催の様子、目的などの説明



▲意見交換-アイデア出しの様子



▲意見交換-アイデア出しの様子



▲各グループのリーダーによる発表

活発な意見交換ありがとうございました。グループで様々な人が意見交換することで、新たな発見や気づきがあったかと思えます。この「作業部会(仮称)」の名称は、メンバーの方に提案をいただき、次回決定する予定です。



【発行】尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会事務局
 ・豊南市 ダム対策課
 ・奥出雲町 地域振興課
 ・鳥取県 豊南県土整備事務所
 ・鳥取県 斐伊川神河川対策課
 ・国土交通省 出雲河川事務所管理課二課

尾原ダム水源地域ビジョンに関する詳しい情報は国土交通省出雲河川事務所のホームページで公開しています。 <http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/>

尾原ダム水源地域 ビジョンニュース

第3号 (H24.11.28発行)

このニュースレターでは、ダム等を活かして地域の更なる活性化に取組む「尾原ダム水源地域ビジョン」の策定の状況を地域の皆様にお知らせしています。

第2回「さくらおろちを活性化する会」を開催しました

◆組織の名称が「さくらおろちを活性化する会」に決定しました。

「尾原ダム水源地域ビジョン作業部会(仮称)」の名称を参加メンバー11名から提案していただきました。提案いただいた名称案をもとに第2回作業部会(仮称)で組織の名称を討議し、「さくらおろちを活性化する会」に決定しました。

◆「尾原ダム水源地域ビジョン」の策定状況は、様々な媒体を活用して発信しています。

様々な情報媒体を用いて、尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会の審議内容(議事要旨・資料)及び作業部会の検討概要等を発信しています。

■ホームページ

- 尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会の審議内容や資料を国土交通省出雲河川事務所HP上に専用コーナーを設け、広く水源地域ビジョンの策定状況を発信しています。
- ホームページ(専用コーナー)の立ち上げ:10月1日
- 専用コーナーへのリンク設定(鳥根県土木部伊川神戸川対策課):10月5日
- 専用コーナーへのリンク設定(鳥根県農南県土整備事務所):10月11日
- 専用コーナーへのリンク設定(豊南市):10月11日

■広報

- 鳥根県や豊南市、奥出雲町が発行する広報を活用し、水源地域ビジョンの策定状況や策定スケジュールなど、水源地域ビジョンに関する情報を発信し、地域住民等の関心の喚起を目指しています。
- 「市報うんなん」での掲載:11月15日
- 「広報奥出雲」での掲載:11月20日
- 地域マスメディアの活用
尾原ダム水源地域を主な活動範囲とする地域マスメディア(豊南ケーブルテレビ、豊南ネットなど)に対し、水源地域ビジョン策定委員会の開催案内や実施内容を積極的に伝えていきます。また、地元新聞社に対しても、開催案内などの情報を発信していきます。

◆取組(プロジェクト)の追加内容を出し合いました。

第2回「さくらおろちを活性化する会」では、前回の意見交換の結果を確認するとともに、守りたい資源や活かしたい資源、取組の追加意見・提案を出し合いました。その後、具体的な取組を「プロジェクト」として位置づけ、3つのグループで熱心な意見交換を行いながら、各プロジェクトの目的や実施場所、具体的な取組などを詰めていきました。提案されたプロジェクトは、景観を保全するための植栽や、各種イベントの企画・開催、大学生との連携など、多様な分野に広がっていました。最後に、各グループの意見を全体で発表していただき、皆で意見を共有して第2回「さくらおろちを活性化する会」を終えました。

日時:平成24年11月15日(木)
19時00分~21時30分
場所:国土交通省尾原ダム管理支所
参加者:25名



▲取組(プロジェクト)の体系化や内容の絞り

【主な意見・提案】

- ダム周辺道路の景観を守るためにも、周辺に繁茂するクズの対策を行ってほしい。
- 水質保全と環境保全の啓発を兼ねてピクトブを整理したい。
- ダム湖周辺の景観を向上させるために、サクラやモミジの植栽を行ってほしい。
- 人がくるダムになるよう、堤体のライトアップやイルミネーション、クレスト放流などを実施したらどうか。
- ダム本体や堤頂道路を活用したイベント(ロッククライミング、綱引き大会、ボウリング大会など)を実施してほしい。
- 尾原ダムを活かした「日本一」を探し、挑戦してみたい。
- ダムのビューポイントの探索や、尾原ダムフォトコンテストを開催したい。
- ダム周辺の静寂さを活かした星空観察会などを開催したらどうか。
- 道の駅を拠点としたレンタサイクルの実施を検討したい。
- さくらおろち湖とサイクリング施設を活用して、トライアスロン大会を開催したらどうか。
- 鳥根大学や鳥根県立大学の学生と連携してほしい。

今回は、今回出していた具体的な取組(プロジェクト)の体系化と内容確認の後、プロジェクトの優先順位をつけることと、「先行プロジェクト(1年目実施)」を選び、そのとりまとめ様式を確認する予定です。



▲意見交換・アイデア出しの様子 ▲各グループのリーダーによる発表

グループでの意見交換を通し数多くの意見・提案をいただき、ありがとうございます。この地域が持つ可能性と今後の方向性が、見えてきたように思います。活発な意見交換をよろしくお願いいたします。

【発行】尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会事務局
 ・豊南市 ダム対策課
 ・鳥根県 豊南県土整備事務所
 ・鳥根県 豊南市 地域振興課
 ・鳥根県 豊南市 農南県土整備事務所
 ・鳥根県 豊南市 伊川神戸川対策課
 ・国土交通省 出雲河川事務所管理第二課

尾原ダム水源地域ビジョンに関する詳しい情報は国土交通省出雲河川事務所のホームページで公開しています。 <http://www.cgr.mlit.go.jp/tzumokasen/>

尾原ダム水源地域 ビジョンニュース

第4号 (H24.12.25発行)

このニュースレターでは、ダム等を活かして地域の更なる活性化に取組む「尾原ダム水源地域ビジョン」の策定の状況を地域の皆様にお知らせしています。

第3回「さくらおろちを活性化する会」を開催しました

◆抽出された55個のプロジェクトの実施内容を確認しました。

第1回・第2回「さくらおろちを活性化する会」で抽出された取組(プロジェクト)の目的や実施場所、具体的な取組などを事前にアンケート調査で意見を募るとともに、1つ1つ確認し、尾原ダム水源地域ビジョンに掲載すべき実施内容を確認しました。

◆55プロジェクトの優先順位と先行プロジェクト^{*}を選定しました。

尾原ダム水源地域ビジョンとして実施するプロジェクトの内容を踏まえ、各プロジェクトの優先順位を右図のように検討しました。プロジェクトの優先順位の検討にあたっては、まず、事前に実施したアンケート調査の結果をもとに、先行プロジェクト(1年目実施する取組)についての意見交換を行いました。その結果、55個のプロジェクト(案)のうち、40個を先行プロジェクト(案)として選定されました。

^{*}先行プロジェクト:1年目から実施するプロジェクト
 日時:平成24年12月12日(水)
 19時00分~21時30分
 場所:国土交通省尾原ダム管理支所
 参加者:23名



次に、先行プロジェクトとして選定されなかったプロジェクトを「取組みやすさ」と「目標時期」で評価し、早期に実施すべき施策(1~3年)、中期に実施すべき施策(4~6年)、長期に実施すべき施策(7~10年)の3つに分類しました。

最後に、先行プロジェクトのとりまとめフォーマットを確認し、第3回「さくらおろちを活性化する会」を終えました。



▲グループに分かれての意見交換の様子



▲全体での意見交換の様子



▲プロジェクトの優先順位付けの様子

今後は、平成25年1月17日開催予定の「第2回策定委員会」で決定されたプロジェクト(案)のうちから先行プロジェクトについて、平成25年2月上旬開催予定の「さくらおろちを活性化する会」で1年目に実施すべき内容や実施主体、役割分担などを討議し、取りまとめる予定です。

先行プロジェクトの選定に際し、ご協力いただきありがとうございました。選定されたプロジェクトの数の多さが示すように尾原ダム周辺地域では、既に活発な活動が実施されています。次回も活発な意見交換をよろしくお願いいたします。

【発行】尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会事務局
 ・豊南市 ダム対策課
 ・鳥根県 豊南県土整備事務所
 ・鳥根県 豊南市 地域振興課
 ・鳥根県 豊南市 農南県土整備事務所
 ・鳥根県 豊南市 伊川神戸川対策課
 ・国土交通省 出雲河川事務所管理第二課

尾原ダム水源地域ビジョンに関する詳しい情報は国土交通省出雲河川事務所のホームページで公開しています。 <http://www.cgr.mlit.go.jp/tzumokasen/>